



子育てニュース N04

(2012年9月)

社会福祉法人すこやか福祉会

こぼとの森保育園

東水元1-16-2TEL(3826-7300)

日中はまだまだ暑い9月ですが朝・夕の風に秋の気配を感じほっとしますね。こぼとの森保育園の子どもたちは運動会に向けて汗を流しながらはりきっています。是非見に来てください。

9月・10月 地域活動のお知らせ

遊ぼう会 毎週火曜日 ★9月は火曜日が運動会練習にあたる為、平日別の



曜日にて対応しております・電話にて、お問合せ下さい。

9:30~11:30 食事代300円

10月2日・9日・16日・23日・30日

0歳から5歳まで、お子さんと同じ年齢のクラスに入り、保育園の生活を体験してみませんか？。一緒にお散歩に出かけたり、お食事を食べたりしながら半日を過ごしましょう！

乳児はエプロン・オムツなど用意下さい。

こぼとの森保育園運動会 9月29日(土)9:00~
場所 東水元公園

プログラムNo5、未就園児の「お宝GET！」に参加してください。(時間は10:00過ぎになると思います。)遊びがてらに是非来てください。

*雨天時は、原田小学校体育館で9:30開始になります。お宝GET！はありませんがおみやげがあります。

子育てサークル 10月11日 第4回ベビーマッサージ
*18日から11日に変更になりました。

*第4回は10/11 保湿クリーム作りをします。
冬に向けて赤ちゃんのために自然なものを使って保湿クリームを一緒に作りましょう！

*第5回は11/15 ベビーマッサージ おなか・胸・おしりをおこないます。



*** サークル・講座はいつからでも参加できます。**

*その他、ご希望で保育園のわらべ歌や語りの会、
保育園行事にも参加いただけます。

お問い合わせは、こぼとの森保育園 TEL 3826-7300 info@kobatonomori.org 担当(松岡)

たまびよの会 いつでもOK! 保育園をより知るためにも良い機会です。

これから出産される、または出産したばかりで育児への不安をお持ちのお母さんのための乳児保育(見学)体験です。離乳食の進め方、オムツのあて方・手作りおもちゃ等々。見て経験して、色々ご相談ください。子育て中の保育士がアドバイスします!



*離乳食試食ご希望の方は300円いただきます。

てくてく保育 10月18日 10:00~11:30 はやぶさ学童

★おやつ作り ジャガイモを使ってじゃが餅を一緒に作りましょう。
とても簡単で保育園でも人気のあるおやつです。

*毎週木曜日は、はやぶさ学童を開放しています。お子さんを遊ばせながらお母さん方のお話の場としてもご利用下さい。
少し目立たない場所ですが、遠慮なく遊びに来てください。てくてく保育では、手遊びや紙芝居パネルシアターなども一緒に楽しめます。



【育児講座】*おもちゃについて* 10月25日(木) 10:00~
はやぶさ学童

「親子で遊ぶ♡おもちゃの与え方、遊び方」
芸術研究所おもちゃコンサルタントの講師:伊藤かね子先生を招いてお子さんと一緒に遊びながら学びます。



学童まつり 10月21日(日) 10:00~14:00
場所 東金町小学校体育館・金町学童

保育園・学童児親子、地域の方々、職員と一緒に楽しいひと時を過ごしたいと思います。バザー・模擬店・遊びコーナー・学童児のステージなど予定しています。

*詳しい内容については、10月上旬発行の子育てニュースでお知らせします。



*ホームページをご覧になった事がありますか? 毎日子ども達の様子が更新されています。プール遊び・流しソーメン・運動会練習など色々あります。是非ご覧ください。また、携帯サイトができました。リサイクルコーナーなどもありますのでお楽しみに。



子どもの権利ってなに？

子どもはおとなの“家来”？

「そんなに言うことがきけないなら、もううちの子ではないから、出て行きなさい！」なんて言われたことはありませんか。

こんなとき、あなたはどのように感じますか？「産見も剛かないで、いつも勝手に決めるんだから」と反感をおぼえる子、「ごはんも嫌がる所もない」と罵るお母さん、「叩けば自分が強いから仕方ない」「ああ、ぼくはどのようにこんなダメな子なんだらう」と自分を責めなく思う子……いろいろいると思います。

お父さんやお母さん、あるいは先生などおとなは、「あなたのため」と言います。でも、もしそのとおりだとすると、「ごはんを食べさせない」「家を出て行きなさい」とか「勉強のできないダメな子ね！」なんて言われたり、怒罵られたり、無視されたら、心がつぶれるほど悲しいですよ。

おとなは大きくて力も強く、お金もあります。突然あなたたちが、毎日ごはんを食べ、着せられたり、テレビを見たり、遊んだりできるのも、みんなおとなのおかげですよ。こんな「つよ〜い」おとな、どんなことがあっても「すかれた〜い」おとな。そんなおとなから「これがあなたのためよ！」と言われたら、結局、いやでも我慢して言うことをきくしかないですよ。

「子ども（子供）」という言葉は、もともと「おとなに従う『家来』」という意味でした。でも本当に、子どもはおとなの『家来』でいいのでしょうか？

どうして“子どもの権利”が必要なの？

たしかに、子どももおとなと同じように人権を持っています。しかし、本当に「かけがえない価値」を持ったひとりの人間、として扱われているのでしょうか。毎日の生活の中で、そんなふうに見られる子どもは、あまりいないのではないのでしょうか。なぜでしょう？

おとなは、自分にとって「向かかけがえない価値」かを自分で決め、それに従って生きていく「権利」を持っています。「権利」とは、ほかの人に邪魔されないように、法律で守られている方です。もし邪魔をする人がいたら、裁判所に訴えて守ってもらうことができます。その代わり、自分で決めたことがうまくいかなかった場合には、すべて自分で責任をとらなければなりません。

でも子どもには、まだ「自分で決める力」も、「責任をとる力」も十分にありません。子どもは「自分で決め、自分で責任をとれるようなおとな」に向けて、だんだん大きくなっていく中であり、だから「子ども」と呼ばれておとなと区別されるのです。たとえ自分で決める権利を持つことができたとしても、決めたことを自分でやっていく力も、お金もありません。責任をとることもできません。それどころか、決めたことをやるうと無理をして、多くの場合、自分を傷つけ、たくさんの人に迷惑をかけてしまうでしょう。

子どもには、ひとりの人間として扱われる資格（＝人権）はあるのですが、おとなと同じ権利を持っていても、まだそれをうまく使うことはできないのです。だからこそ、子どもには「子どもの権利」が必要なのです。

『子どもの権利条約』 絵辞典

PHP研究所

より抜粋しました

子どももおとなも同じ人間

子どもがおとなの『家来』だとするなら、誰かいいんを食わせてもらい、勉強をさせてもらい、いろいろな物を買ってもらったり、おとなの言うことには何でも「ハイ」と従い、おとなの言うとおりに頑張る『家来なよい子』でなければならぬことになり、でもそれでは、あなたは犬のボチと同じではないでしょうか。あなたの言うことをきかないで、ほえたり、かみついたりすると、「お前は、茶釜にバカだ」とか「言うことをきかないと、よその家へあげちゃうぞ」なんて言いなから、あなたはボチを『家来』にしていませんか。

考えてみてください。お釜をくれたり、皿料理をみってくれる方の強い人には、自分の思いや願いも言えず、我慢して向でも言うことをきかなければならないとすると、この世の中は、天竺持ちで力の強い宝珠のようなほんの少しの人と、その人に任せる多くの奴隷のふたつに分かれてしまいます。

そこで、今から200年ほど前、「人は奴隷でもボチのような犬でもない、すべての人は生まれたときから平等で、一人ひとりかけがえない価値を持った人間である」という考えが生まれました。すべての人がそのような人間として扱われる資格を持っていることを「人権」と呼ぶようになったのです。

子どもも、生まれたときから、奴隷やボチのように扱われない資格があるのです。子どもはおとなの『家来』ではなく、おとなと同じ人間であり、人権を持っているのです。

子どもの権利と子どもの権利条約

子どもにとってかけがえない価値とは、「世界でたったひとつの宝」として扱われながら、どのようにして、「自分らしく生き、思いやりのあるおとな」へ向けて大きく育つことができるかということです。

1959年、ニューヨークの国連で、世界中の国が守らなければならぬ、子どもの権利についての約束ごと（『子どもの権利条約』（972〜77ページ参照））がつけられました。そして「子どもには、自分の思いや願いを自由にしながら大きく育つ権利」（6条、12条）があり、子どもの面影をみるおとなには、「子どもの思いや願いと真剣に向き合う義務がある」ともなりました。

親や先生など、身近で面影をみる人は、子どもの育つ思いや願いがどんなものであるか、「アー、ねー」という呼びかけを無視したり、顔から「バカを言うな」と拒否することは、許されなくなりました（5条、12条）。

こうして、「呼びかけ向き合ってもらう権利」を使って、おとなに邪魔されることなく、あなたの自分の自分を止めず、おとなとの対話のキャッチボールを通して、自分らしく大きく育つことができるようになります。子どもは、ボチや奴隷ではなく、自分です。ひとりで遊んだり、遊んだりする必要もありません。

だからこそ、この「呼びかけ向き合ってもらう権利」は、子どもの権利のいちばん大切なものであり、おとなに愛されながら大きく育つ権利なのです。